

山北両烈士の碑

除幕まで秀彦日記などから

元治元年 安岡嘉助 天誅組で囚われ処刑

明治元年 安岡覺之助 戊辰戦争で戦死

明治二十四年 嘉助従四位を受く

***安岡嘉助に贈位された賞状を下に示す。**

明治三十一年 覺之助従五位を受く

明治三十九年 大石圓従五位を受く

大正二年十月十二日 元治甲子年代二殉シタル志士五十年祭施

行安岡嘉助遺族代理トシテ行キタリ・

大正五年十月十七日 大石圓死去

大正七年十二月八日 大石圓先生建碑義金募集ニ来ル金貳拾円也寄付セリ

大正九年七月十五日 大石圓翁略傳(編輯者 寺石正路) 発行

大正十年十二月十九日 寺石正路氏ニ青年同志会ヨリ豫テ依頼シタル安岡覺之助及嘉助氏傳記出来讀ム

大正十二年九月二十二日 青年ガ安岡覺之助安岡嘉助両氏ノ記念碑石材取寄ニ奈半利ヘ行ク

大正十二年九月二十三日 青年会ガ取寄セ中ノ忠魂碑石材奈半利川橋墜落シテ共ニ落チタ・

大正十二年九月二十四日 青年会員取寄セノ安岡兩烈士記念碑石材着ス

大正十三年六月十八日 公文俊馬ヨリ故安岡やなノ所有シテ居ツタ故安岡覺之助様遺物等小包ニテ送り来

ル是ハ青年ノ企図セル傳記編纂及ビ記念碑建設ノ參考資料ニスル為ナリ

大正十三年七月二十九日 安岡正瀬氏ヨリ安岡覺之助様墓及其ノアル寺ノ寫眞送り来る

***正熙からの寫眞口絵に組込む(下左写真)**

大正十四年八月二十五日 安岡嘉助氏墓碑へ刻セル辞世ノ詠ヲ寫シニ四坊山へ迄共ニ帰ヘル組合

ヘ行ク・覺之助 嘉助両氏傳記編纂ニ・寺石先生ニ其レヲ見セ適當

ニ傳記加フル筈ナリ・山本氏等寫眞屋ヲ招キ山北全景ヲ寫ス之レモ

右口絵ニ加ハル筈ナリ

***墓碑の歌(次頁左側に掲載)でなく天誅組出陣の際の歌(次頁右側)を口絵に掲載**

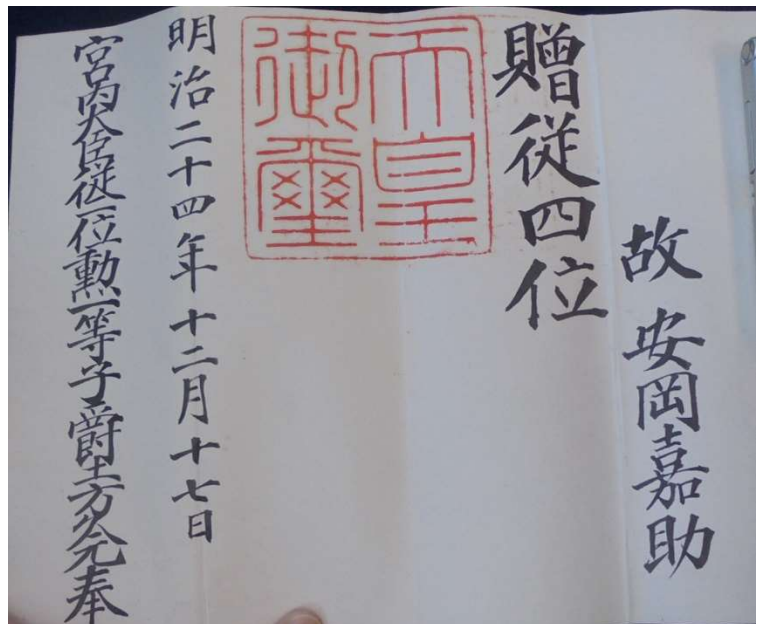
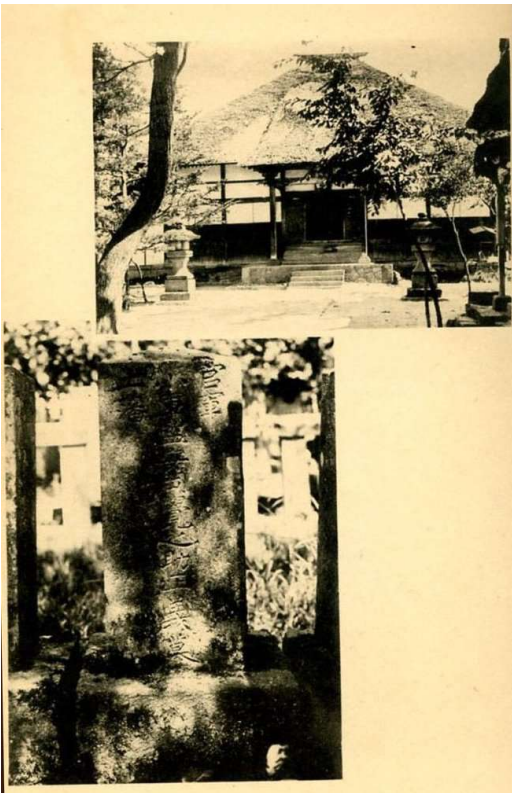
***寫した山北全景写真(最終頁)**

大正十四年十月十日 山北兩烈士(寺石正路著) 発行

大正十四年十月二十八日 寺石先生ヨリ山北青年会ニ宛ニテ手

紙アリ山北兩烈士ノ件田中伯ヨリ催

促ガアツタ



大正十五年九月一日 本日から愈覺之助並ニ嘉助氏碑題字ヲ刻ミ初ム

大正十五年九月十七日 記念碑ノ建設ノ為メ来テ居シ石切りサ

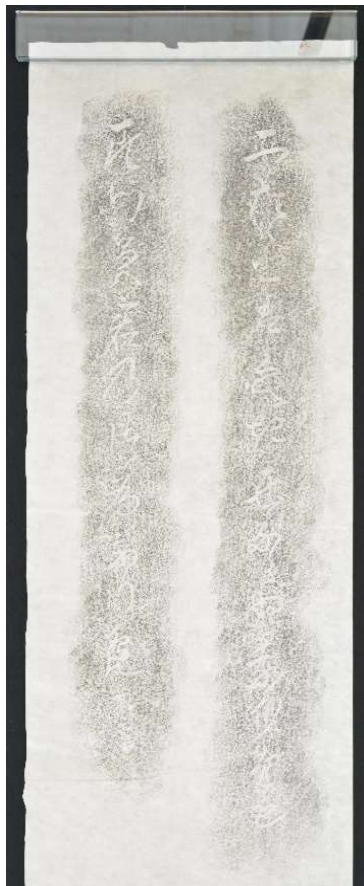
ンヲ招キ役場員ヤ西内郵便局長等ト飲ム
昭和四年三月十一日 組合ヘ行ク組合ニテ借金シ其レヲ軍人分

會長及青年團長宛テニテノ覺之助嘉助兩氏
建碑慰勞之為寄附ス其ノ金額壹百圓也全封
ニテ安岡正瀬氏ヨリノ壹百圓也及章ヨリノ
拾圓也モ寄附ノ取計ヲ□為セリ

昭和四年四月二十一日 朝四坊山墓地ヲ掃除シ覺之助嘉助兩氏

ノ墓前ニ榊ヲ挿シ拜ス其レカラ慰■再
ビ出祭ヘ行ク兩人遺族トシテ招待サル
午後一時過カラ兩氏ノ記念碑除幕式自
分幕ヲ引キニ終ス祝辞・

*奈半利から石碑を運んで来てから八年目に除幕式。

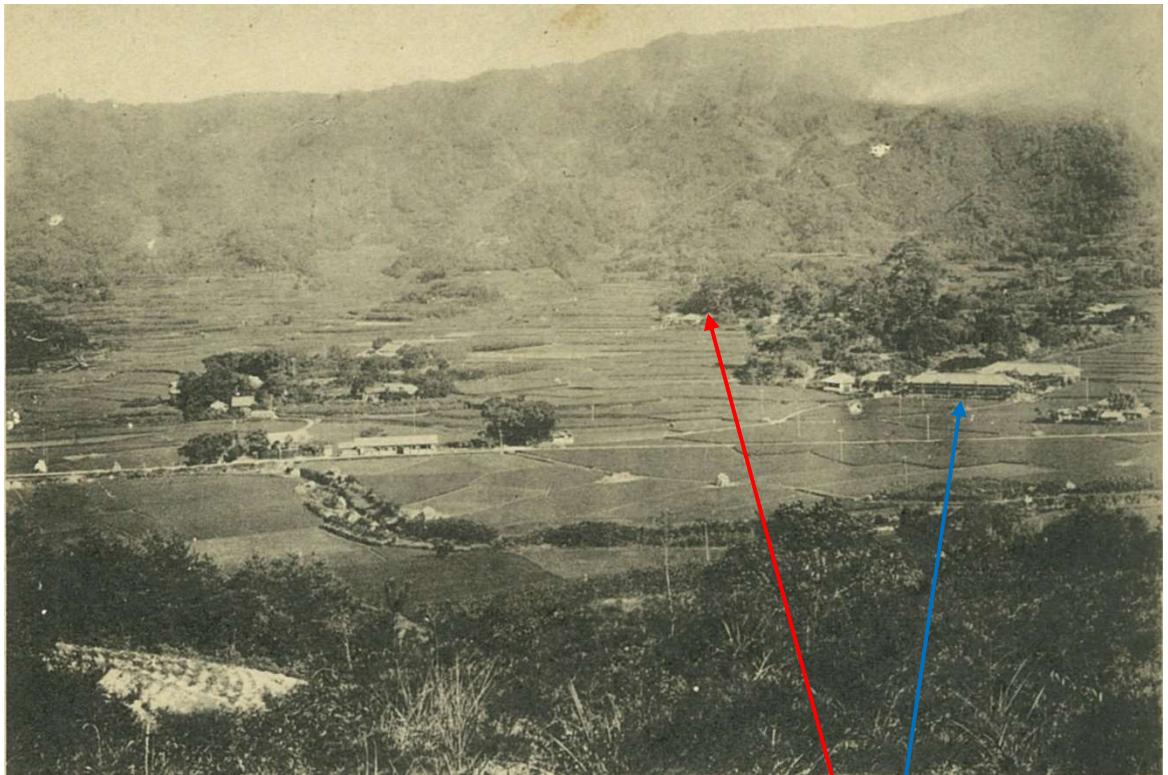


嘉助の墓標に彫られた歌
二た、悲盤るくへ起世奈らぬ我身をも
春川留ハ君乃御為奈里■里



天誅組出立で大石弥太郎に送った色紙
(青山文庫で保管)

かくばかり降りつる世を
梓弓引返へさずば如何で已むべき



上の写真 1925 (大正 14) 年 8 月 25 日 撮影 鎌井谷 恵日寺への登り口
 尋常小学校
 下の写真 2007 年 1 月 24 日 撮影 (有岡山から) 鎌井谷ダム

